

乍恐以書付奉願上

当郡米価の儀当秋に至リ俄に直段引上右は上方并北國筋違作の場所柄有之酒田湊高値に付諸
方商人とも当郡江立入米穀糴買いたし同湊に積下し故の儀にて村々一同夫食差支難波仕小
同湊川下穀留の儀奉願上小宛御慈悲を以願の通被仰付一郡挙て難有存小宛最早此節新穀出
小時節に至リ小ても更に直段引下不申尤新穀留被仰付小以前商人とも糴入買小故身元のもの
共歳末田置分迄不残擢立賣小趣にて悉田米払底に罷成当時新庄米酒田湊江積下し金拾両に
付拾八九依程の相場は相聞ひ小間不得止事商人とも一己の利欲は泥み御穀留明記小程合を見
込新穀札商同様に賣買いたし銘々糴入買度小ニ付直段引下不申而已ならず此上勝手俵に川下
御差免に相成小は、未夏に至リ村々夫食に差支小は歴然の儀兼て御堅存被為有小通当郡は酒
田湊一方口の場所柄に付天保区作の硯は西国中國北國迄米穀買入酒田湊より為積登相凌小へ
共当年も右の次第にて一部聊の産米却て他國江被引渡小様罷成万一未未遠作等におよひ小は
、夫食の手当無之手を束ね為及渴命小様の儀出末可申哉と深心痛仕小儀にて御私領村々役人
とも煩りに心配致居小様子に相聞ひ小とも下方におゐて可防方便も無之痛却罷在小仕合御座
小間何卒右前件御高察被成下置米價下落いたし小迫其向に御收納米は格別商人とも賣米勝手
俵に不相成様被為仰付被下置度奉願上、
右願の通御向届被下置小は、一郡平穩に相續出末廣大の御仁恩と難有仕合に奉存、以上

安政五年
(二八五八年)

安政五年

十月五日

柴橋附

郡中最寄年番

名主連印

林伊太郎様

御役所

一一

乍恐以書付奉願上、

当御支配所羽州村山郡村々御物成米に付酒田湊江空船御差向の儀は先前大坂川口出帆御定
御定も御座小様奉承知大体四月中には右湊江空船着岸御座小由の所天保の頃より追々延着に
相成六七月頃迄も御雇付無御座趣納所名主より申越小儀も同々有之全体出羽國は陰気勝の土
地柄に付遠海相廻小儀彼岸後には商船たりとも積湊出帆無之諸荷物田に相成小筈に承知仕殊
に当郡御廻米の儀至て米性不宜長々積所湊江積之置小様相成小ては其内更痛米出未欠減相之
其上風雨の変不少積所納所名主共雜用相増旁百姓とも難茨仕小に付去々辰十二月中空船御差
向方の儀奉願上小へ共其後に至りいても更に御沙汰も無御座空船延引小相成小ニ付去ル卯の
御廻米より年々御積之残米出未小ニ付湊御捕奉願上、御下知済の上御被仰付上納相済小へ

とも猶当年も右の姿に成行未だ廻船積所湊江皆着無之右小へは年々湊御拂奉願上小外無御座
畢竟

御公儀様御不益筋にも相成可申と奉存、且郡中村々に取いては前々奉申上、通才一御國內江
長積立置小へば更痛米腐米等多分出末右御米遠海相廻し小ては御藏納可相成米性纒ならて
無欠減不少其外積所納米出役名主共長逗滞に付湊御拂御下知済迫御米番人附置小儀に付品々
諸入用相嵩弥増百姓共難波至極仕小向此段御仁察被成下置何卒末未年より五月中迄積所湊江
空船御差向皆着相成小様其向々様江御達し被仰上下置度村々兼帯最寄名主連印を以奉願上、
右願の通御間済上成下置小は、郡中一流難有仕合奉存、以上

安政五年
(二八五八)

安政五年

年十月十日

柴橋村附

郡中最寄名主

連印

林伊太郎様

柴橋

御役所

乍恐以書付奉願上

一米

内米

米

御本米

欠米

右は当御陣屋附去已御年貢当年春西海東海御廻米積船酒田湊におゐて御積立可相成分書面之
 石数可積受空船入津無之御國庭江野積に有之数月塩風吹晒し小三付更痛米夥敷出来勿論雨
 天勝始終不順氣にて立入の時節干立方不行届米性御年貢摺立方外を数月野積に無之小へは受
 米出来儀は尤の儀奉存、此上海船入津有之小とも遠海相廻し小は、何程腐米更痛出来欠減
 相立小も難斗艱ヶ敷奉存、向何卒格別の以 御心惠前書の残御廻米本欠とも不残湊御拂直段
 上納相成小様急速御伺被成下置度奉願上、
 右願の通御間届ヒ成下置いは、廣大の御慈悲と一同難有仕合に奉存、依て最寄名主連印を以
 此段奉願上、以上

右 同 断

林 伊 太 郎 様

柴橋御役所

年月日ヲ欠クモ
 右同断トアルニ
 ヨリ安政五年（
 一八五八年）ト推
 定ス

乍恐以書付奉申上て

当御陣屋附村々御廻米の儀酒田湊江川下仕同所御田内江野積にいたし掛菰の手当而已にては
 廻船延着の歳柄数々風雨よ吹晒置欠減雨濡等の愁も有之郡中不益筋の儀御賢察被為有天保度
 御勘定高橋平治様御下向の砌場所御検分の上酒井左衛門尉様御入用を以御米置場板倉御普請
 と成下小趣ヒ仰向一同難承知仕小へとも四方田の板倉にては炎暑烈敷時節却て更痛蒸腐等出
 未殊増難茨仕小ニ付板田に無之四方通貫の詰藏に取立の上藏内江御米積立置小様仕度段奉願
 小廻右は通例諸向御藏々とも透儀に付願の趣は難ヒ及御沙汰段ヒ仰渡為御試長七向の横幅
 三向の板藏御取建の上御様中嘉永三々歳中吉田條太郎様御支配の節被仰向小は右板藏の儀板
 張は相除格子田四方相透詰藏に相成小は、取締も宜雨濡は勿論蒸腐等の愁も有之向鋪右に付
 願筋等無之哉の段御糺に付右の通四方格子田詰藏御取建ヒ成下小へは一同難有奉承伏願上小
 にも御下知無之夫成相廻罷在小廻其頃は海船延着相成小ても八月彼岸前湊御出役御引拂に相
 成勿論其以前は郡中より湊詰名主共同湊江三月中旬下向いたし日数百日の請貢にて相勤多分
 六月中引拂相成小へは御米野積に差置小ても左程更痛出来不申小廻海船近々延着み相成既よ
 当年迄三ヶ年残御米湊御拂相願小程の儀乍恐

御公儀様御不益相立郡中より湊詰名主共請貢日数一位も永逗留に相成外御米番人附置小諸稚
 費勞不少入用相掛一同難茨仕小向何分願御、法相願度相談罷在小廻先年御取建の板藏にては
 前書申上小通連も用ひに難立相談飽に罷在小廻先般御代官様格別の御仁恵を以御直ヒ仰渡難

有奉存、村々相談仕小へとも天保度願上、四方相透小詰藏の外別段可申上様無御座小向右藏
 桁下三尺通板張其余透通に御取建上成下度兼絵図を以奉申上、右御補理上成下置小へは御米
 更痛は勿論濡澤手依等も出来不申様相成郡中一同相助難有仕合奉存、依之村々惣代最寄名主
 連印を以此段奉申上、以上

寒河江附郡中村、

最寄惣代

名主

郡中惣代

善

衛

柴橋附郡中村々

最寄惣代

名主

郡中惣代

太右衛門

市郎兵衛

林伊太郎様

寒河江
 紫橋

御役所

安政五年
 (二八五八年)

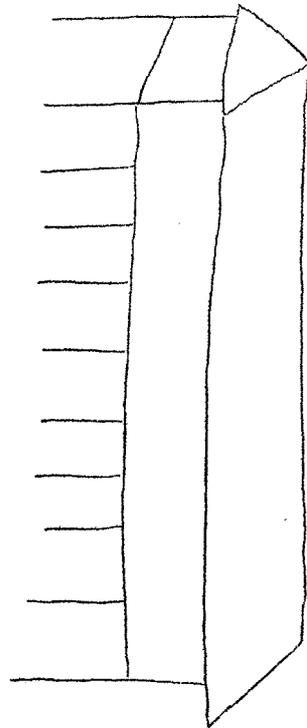
安政五年
 年十月

酒田湊御米置場内新規
御取建藏簾繪図

桁行三於四位
梁間二間半位
桁下九尺位
桁下三尺通板張

藏内江御米
但三於六俵宛
積之置小積リ

右藏柱堀之上家は最寄非常火災等有之小節は飛火防方相成小様かわらふき奉願上て



右藏為御試屯部江巻ケ所宛 御取建上成下度奉願上て 以上

年月日記入ナキモ
内容分前便關係ノ
モ故安政五年
(一八五八年)ト
推定ス

林 伊太郎様

寒河江

御役所

柴橋

名前

前同断

五

乍恐以書付奉願上

当御支配所松橋村名主堀米四郎兵衛持病の疝痛よて時々相煩難儀仕小三付米澤五色温泉江湯
治仕度奉存小間当月廿日より来月廿八日迄日数三十九日御暖ヒ下置小様奉願上て尤御用村用
銅山御用共私共相勤聊無差支小様可仕小間何卒願の通御届届ヒ成下様乍恐此段書付を以奉願
上

松橋村

未

四月十九日

未八日未
安政六年
（一八五九年）
ナリ

堀米四郎兵衛

組頭 友藏

“ “ 三徳

“ “ 久五郎

米沢村

銅山後見人

入之助

柴橋
御役所

六

乍恐以書付御届奉申上

当月十九日より雨降続いに付洪水いたし松橋村面組耕地右川縁々田畑不残水冠り相成り未た落水可仕小高損所出来小哉礙と相訳りふ申小へ共落水の上格別損所出来小は、礙と取調可申上、此段乍窓書付を以御届奉申上、以上

安政六末年
(一八五九年)

安政六末年五月

松橋村 勘 平

佐 七

佐五兵工

同村上組

柴 橋

万次郎

御 役 所

三 徳

七

乍恐御書付奉願上

当御陣屋附村々御廻米の儀酒田湊江川下仕同所御田内江野積々致し懸菰の手当所已にては廻船延着の歳柄数日風雨又吹晒置欠減雨瀬等の愁有之郡中不益筋一同相歎罷在小へ共相談み罷罷在小処去歳中

御代官様酒田御見分御帰陣の上郡中為筋被為思召格別の御仁恵を以御直被仰諭一同難有奉存、村々相談仕天保の度願上、四方相透の詰蒞御取建に成下度旨兼絵図相添奉申上御取調中の処当歳御廻米溜船早春より追々入津の分不残出帆相成此節御米千四百八拾五俵余未々御田内

安政六年
(一八五九年)

江相残小へヒも近歳に無之早着右は 御代官様格別御骨折ヒ成下小御仁法ト一同難有奉存、
以来当歳の通御仕法ニ御座小へは郡中の愁薄く御田内詰藏にも不及儀ト奉存小向先般奉差上
、願書御下ヒ成下度奉願上く 以上

安政六年六月

当御支配所

柴橋

御廻米村、最寄惣代
村々名主連印

御役所

八

乍恐以書付奉申上く

松橋村当田方の儀植付後降雨勝ニ付稻草元、薄く生立後れ蝗氣御座小此節ニ相成虫氣は相
止此上快晴小は、並作にも可相成哉土用明當時の模様御届奉申上く 以上

未ハ

安政六年
(一八五九年)

未

七月十九く

松橋村下組

百姓代 勘 平

組頭 佐 七

” 佐五兵衛

同村上組

柴橋
御役所

百姓代 万次郎
組頭 三 徳
名主 堀米四郎兵衛

九

乍恐以書付御届奉申上、

当御支配所松橋村西組奉申上、過ル廿五日より大風雨にて大木数多吹折小程の義に付稲草出穂最中折痛小分余程相見江且降雨相続最上川洪水仕五月中出水の節より四尺程も水嵩相増昨夕方迄数度見廻小廻大川縁田畑不残水冠に相成未減水不仕小向損所疔と不訣小へ共落水の上格別の損所出来いは、疔と取調可奉申上、此段乍恐以書付御届奉申上、以上

未(安政六年
(一八五九年)

未
七月廿七、

松橋村下組

百姓代 勘 平

組頭 左 七

佐五兵衛

同村上組

柴橋

御役所

百姓代 万次郎

組頭 三 徳

名主 堀米四郎兵衛

乍恐書付を以奉願上く

一米百五石六斗四升九匁五六

内 米百石貳斗貳升三合四勺七文

本米

米五石四斗壹升七合四勺八六

欠米

右は私共村々去年御年貢当未春江戸御廻米東海西海同國酒田湊におゐて御積立に可相成内書面の石数可積受空船は越後國并当郡御廻米積合但州濱堀浦直宗船頭吉次郎船の儀同州齊藤六藏棟御支配所津居山湊濱沖におゐて及難船小取同所より御達に相成小ニ付代船御差向方廻船方江ヒ仰付有之小取東海西海共時節後に相成小ニ付不相成に付未申の春に至り代船御差向の積り大坂廻船方より御掛合有之小取ヒ仰渡承知仕小然る処一体村山郡の義は餘國と透ひ土地米性宜しからず其上早春より酒田湊江積下ケ御田内江野積にいたし吹晒し残御米冬田の上未春御積立御廻米ヒ仰付小ては江戸御蔵庭水場いは、不殘御刻切に相成可申は眼前の義左小へは二重の御年貢上納仕小様成行歎ケ敷次々に奉存、勿論江戸表におゐても村山は悪米と唱小程の義殊み三ヶ年越にも相成小御米積廻し小例無御座其上少石数の御米冬田み相成小ては御米番人附置小義に付多分の失却相成リ彼是以難茨仕小向何卒格別の以御仁惠前書殘御米分是迄の通同所湊におゐて急速御拂の上代金上納ヒ仰付ヒ下置度奉願上、

右願の通ヒ仰付ヒ下置いは、百姓共一同相助廣大の御慈悲と難有仕合奉存、依之村々最寄惣代連印を以此段奉願上く 以上

未八巳未
安政六年
(二八五九年)

未十月

柴橋

御役所

当御支配所

羽州村山郡

御廻米村々最寄惣代

名主

印

一一、

乍恐以書付奉願上小

当御支配所

羽州村山郡

松橋村上組

組頭久五郎二男

久四郎

当末 式於才

右久四郎義農業を嫌ひ家風不應身持不埒に付親類組合村役人供々異見差加へ小ても不相用却
て増長仕此上は難捨置無執今般御訴奉申上小何卒格別御慈悲を以久四郎儀勘当帳外ヒ仰付下
置小様法度此段偏に奉願上小 以上

松橋村上組

久四郎父

組頭 久五郎

親類惣代

同 右

未十一月十一日

林伊太郎様

紫橋

御役所

三右衛門

組頭惣代

小 助

村役人惣代

名主

堀米四郎兵衛

一一一

御本丸御炎上今般御普請之處近來異國船渡来一条に付莫大御用途多く御場合恐察向々より献金之願不少話に自分共迫も献金相願儀に有之一鉢私領之儀に心得は不取敢郡中江の用金は勿論之事にて御料所とて右様の節は御用金可ト仰出筋に心得近來作柄等不宣儀を厚御差汲ヒ為成小哉に今夫等之御沙汰も無之心得共太平式百歳来之蒙 御恩澤安暗に妻子迫も扶助い多し居い 御國恩之難有段を弁いてヒ仰出無の内銘々より可願出本意に有之尤献金い多し小もの小江は先歳の振合ふ無御抱御臺場御普譜上納金等之御振合を以御賞可ヒ成下哉之其筋御噂有之冥加に相叶儀にて万分一之 御國恩に奉報い上右之通御賞ヒ成下い上は其身一分之規模而已にも無之先祖に對しいては孝行等奥に難得時節にて難有次々に付寄敷厚相弁銘々力を盡し献金相願い方可然依之此段申諭い

申正月

右御教諭之趣承知奉畏以依之御請印形仕い 以上

申八庚申デ
万延元年
(一八六〇年)

申二月

柴橋

御役所

郡中

三役人惣連印

一三三

差上申一札之事

当御支配所

西里村中島組

百姓

万次郎

手鎖之上村預

松橋村上組

勘十郎弟

権次郎

右同断

西里村白山堂

庄左衛門弟

貞次

村預け

同入下男

左七

同断

嘉四郎下男
七郎兵衛

右は秋元但馬守様御領分前小路村地内字根際山御領有林伐木一件に付伐取小万次郎并引合之
もの共書面の通村預ヒ仰付小向不取逃様組合村役人其外のもの共晝夜付添御呼出の節は早速
相連れ罷出小様可取斗旨ヒ仰渡奉畏小依之預証文差上申処如件

申二月廿八日

嘉四郎

申八庚申年
万延元年
(一八六〇年)

林伊太郎様御手附

庄左衛門
勘十郎

青津新三郎殿

右のもの共

同役人様手代

組合不
村役人

柳川午之助殿

一四、

乍恐以書付奉願上小

午八安政五年
未ハ六

当御支配所柴橋附郡中村々役人奉申上小私共去ル午御物成去未、春江戸御廻米之内米百四拾五
石余納不足相成右凡積米三拾五石に付金七拾四両替之見込を以買納積仕譯取調納名主共より
江戸 御役所江奉差上小に付越前屋平兵衛江預け金等御差引御取調金百三拾五両余買納代村

己八安政四年

未歲八
安政六年

午八安政五年

当申八
当万延元年

万延元年申歲
(八六〇年)

々江割賦取立早々可相納旨今般御嚴重ヒ仰渡一同恐入承知奉畏小得共去々已御廻米欠減納不足米百九於六石余相立右之内五於壹石余買納米厚思召を以御扱石代納ヒ仰付難有奉存小得共運々衰罷在小前漸皆上納仕然処去未歲之違作にて弥増難波相重勿論此節米價至て高直に相成銘々相続方必至の場合旁以弥増前 奉申上小通勞果罷有小前一同相歎小向御時節柄誠に恐多く奉存小得共前書午御廻米納不足之分同歲御扱石代御直段米壹石壹斗八合九勺九才替を以石代納ヒ仰付度奉願上小寒河江附より見競小ては六於三石余も買納無數処願之趣御取用に難相成旨ヒ仰渡願書御下相成小向猶又評議仕小処右御向濟難相成御儀に御座小は、当申出生米を以末春新穀廻上納ヒ仰付御扱ヒ下置度強て奉願小段重々奉恐入小得共村々必至と困窮仕詰小上之儀に付買納代金取立上納仕小様には迎も行届兼小向無拋恐をも不顧御歎願奉申上小何卒格別之御慈悲を以右西様之内御向届ヒ成下度様江戸表江ヒ為仰立ヒ下置度一同連印を以此段奉願上小 以上

萬延元 申歲四月

柴橋附

柴橋

御役所

村々役人連印

一五、

乍恐以書付奉願上々

未歳ハ
安政六年

当御支配所村役人共奉申上く去未歳之儀諸國共違作の場所所有之哉当早春より酒田湊米価高直
二付諸方商人共当郡江入込米穀並雜穀共糴買いたし同湊江積下し或は奥州仙臺江賣米いたし
置賜郡米沢迄為差登小欠米価近歳無並高直夫故穀物拂戻に相成小向貧民買夫食のもの夫食買
入方差支内々騒立居小風雨有之右体の儀にては郡々の憂引出は眼前の儀に付銘々痛心仕小
向村山郡向々同役江取合小欠何れも同意にて此上他國他郡江越米相成小ては当秋出穀迄可相
凌手段無之自ら騒立小相成差当難波ニ御座小向何卒格別の御憐愍を以酒田湊江川下米不相成
様大石田船方御役所ヒ為仰達穀物の分船入御差苗ヒ成下置仙臺越米澤口右口苗所江御差苗ヒ
仰度ヒ下置小は、直段高下に不抱人氣穩に相成一同難有仕合ニ奉存、依之此段奉願上く以上

申ハ庚申上テ
万延元年
(一八六〇年)

申四月

柴橋附

村々役人連印

柴橋

御役所

一六

乍恐以書付奉願上、

当御支配所

羽州村山郡

松橋村上組

友藏

当酉式於八才

末尾三年月
記入ナキモ友
蔵ノ左脇ニ
当西トアルニヨ
リ四年即チ辛
酉

文久元年
(一八六一年)

右友蔵儀農業を嫌ひ家風不応身持不埒に付親類組合村役人異言差加江小江共不相用却而增長
仕此上は難捨置無據今般御訴奉申上、何卒格別の御慈悲を以友蔵儀勘当帳外ヒ仰付ヒ下置小
様仕度此段偏ニ奉願上、 以上

松橋村上組

友蔵兄

名主 堀米四郎兵衛

親類直蔵外八人惣代

吉兵衛

右 同 断

林伊太郎様

柴橋

御役所

利助

組合惣代

四郎次

村役人惣代

三徳

同日願の通ヒ仰付村方江為立入間鋪旨ヒ仰渡一同連印御請証文御取ヒ成小同日内々入之助
殿も御立会ヒ成小同廿二日友蔵江申渡す

一七

乍恐以書付奉願上

当郡中会所詰村々惣代市郎兵衛太右工門年末勤役罷在小宛追々大借財出来惣代難相勤今般退

亥八
文久三年

役仕小ニ付跡惣代の儀は未亥、正月中郡中村々初寄合之節人拵いたし取究小様可仕小江共夫迄の処郡中最寄年番惣代並地元名主両人の内惣代取究順番に詰合聊御用向其外都て無御差支相勤小様可仕尤当八日より八月七日迄柴橋村名主弥兵衛白岩村名主善兵衛両人にて相勤小後替り合のものは又兩人宛前同様相勤小様郡中一同相談決着仕小向此段御届届ヒ成下度一同連印を以奉願上く、以上

文久三年戊八
(一八六二年)

文久二年

戊七月六日

柴橋
御役所

一 戊七月八日より
八月七日まで

当支配所

村々連印

願人郡中惣代

太右衛門

市郎兵衛

柴橋村

名主 弥兵衛

白岩村

名主 善兵衛

柴橋村

名主 藤右衛門

松橋村

名主 堀米四郎兵衛

柴橋村

名主 弥兵衛

右者当郡中會所詰跡惣代取究いまで書面の通順番相勤い積り取究い向此段奉申上ゝ以上

田代村

名主 仁左衛門

清助新田

名主 清 助

長瀬村

名主 文三郎

六田村

名主 東右衛門

白山堂村

名主 弥右衛門

細野村

名主 善兵衛

柴橋村

名主 弥兵衛

白岩村

名主 善兵衛